

[令和3年度用]
新しい国語

検討の観点と内容の特色

「検討の観点」一覧

● 教科目標・学習指導要領への対応 … 2ページ

- ・教育基本法・学校教育法に則った内容になっているか。…………… 観点1
- ・学習指導要領に示された内容に対応しているか。…………… 観点2

● (知識及び技能) に関わる学習内容の改善・充実 … 2ページ

- ・語彙指導に関する内容の改善・充実が図られているか。…………… 観点3
- ・情報の扱い方に関する内容の充実が図られているか。…………… 観点4
- ・我が国の言語文化に関する内容の改善・充実が図られているか。また、我が国の言語文化に親しみ、継承・発展させる態度の育成にふさわしい教材が選定されているか。…………… 観点5
- ・読書指導に関する内容の改善・充実が図られているか。…………… 観点6

● (思考力、判断力、表現力等) に関わる学習内容の改善・充実 … 3ページ

- ・思考力、判断力、表現力等が、確実に習得できるように工夫されているか。…………… 観点7
- ・実生活で生きて働き、各教科の学習の基盤ともなる資質・能力が身につくように工夫されているか。…………… 観点8
- ・PISA型読解力の育成や、全国学力・学習状況調査で求められる学力の向上のための取り組みは十分か。…………… 観点9

● 主体的・対話的で深い学びを実現するための学習内容の改善・充実 … 4ページ

- ・生徒が、見通しを持って主体的に学習に取り組み、対話を通して課題を解決するといった、主体的・対話的で深い学びが実現できるように工夫されているか。…………… 観点10
- ・SDGsをはじめ、現代的な諸課題に対して主体的に取り組むことのできる内容になっているか。…………… 観点11

● 内容の取り扱い(構成・配列、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと) … 4ページ

- ・各領域の学習内容の系統性・段階性、領域間の関連が図られているか。また、各領域等の資質・能力が偏りなく育成できる構成になっているか。…………… 観点12
- ・適宜学習を振り返ったり、深めたりするなど、個に応じた学習ができるように工夫されているか。…………… 観点13
- ・2学期制への配慮がされているか。…………… 観点14
- ・学習指導要領に示された指導事項が系統的に押さえられ、言語活動が十分に扱えるようになっているか。また、授業時数が十分に確保されているか。…………… 観点15・18・21
- ・資質・能力の着実な習得と活用のために、教材の構成などが工夫されているか。…………… 観点16・19・22
- ・生徒の発達段階に即した題材・文種を取り上げているか。…………… 観点17・20・23

● 学習への配慮 … 7ページ

- ・小学校の学習内容との関連が図られているか。…………… 観点24
- ・高校の学習内容との関連が図られているか。…………… 観点25
- ・他教科の学習や実生活との関連が図られているか。…………… 観点26
- ・地域性への配慮がされているか。…………… 観点27
- ・全ての生徒にとって使いやすい教科書となるように、表現や体裁などにおいて、特別支援教育やユニバーサルデザインの配慮がされているか。…………… 観点28
- ・情報活用・ICT活用に対する工夫がされているか。…………… 観点29
- ・家庭学習・自学自習への配慮がされているか。…………… 観点30
- ・印刷・製本は適切か。また、用紙の軽量化などの配慮がされているか。…………… 観点31

教科目標・学習指導要領への対応

観点 1 教育基本法・学校教育法に則った内容になっているか。

- 教育基本法の理念および学校教育法の規定に則って、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を養い、我が国の言語文化を享受・継承し、進んで読書をする態度と、豊かな人間性・社会性を育めるように、編集されている。

観点 2 学習指導要領に示された内容に対応しているか。

- 学習指導要領に示された〔知識及び技能〕の事項、および〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項と言語活動例は、本編・基礎編・資料編から成る3部構成のうち、本編と基礎編で網羅されている。教科書全体を通して、生徒が言葉に着目し、**言葉による見方・考え方**を働かせながら言語活動に取り組めるように工夫されている。
- 教科書全体を通して、国語学習を生活や人生に生かすという視点が貫かれ、**学びに向かう力、人間性等**が涵養されるように工夫されている。
- 巻頭には、領域ごとの**既習事項**（これまでに学んだこと）と、**学習事項**（これから1年間で学ぶこと）が掲載されている。後者では、**学習指導要領との対応**が明示されている。→各学年p.6
- 主体的・対話的で深い学び**を実現するための学習の流れや教材内容が工夫されている。

（知識及び技能）に関わる学習内容の改善・充実

観点 3 語彙指導に関する内容の改善・充実が図られているか。

- 「読むこと」の教材末尾の「広がる言葉」で、文章中の表現と関連させるなどして、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。資料編「言葉を広げよう」と合わせて3学年で**1555の言葉が例文とともに**示されており、「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の学習にも生かすことができる。→1年p.53, 69, 328
- 「日本語探検」では、キャラクターが日本語の不思議な世界を探検する**物語仕立て**の文章を読みながら、日本語の決まりや特徴を楽しく学ぶことができる。→3年p.82, 150
- 文法の教材は、本編「文法の窓」と基礎編「文法解説」の2部構成。前者では、学習の導入として**ゲーム**で楽しく学べる工夫がされており、後者では、文法事項が**体系的に整理**され、詳しく解説されている。→3年p.121, 260
- 「読むこと」の教材で新出漢字が多く提出されており、**文脈の中で**学べるようになっている。また、「漢字道場」では、漢字の基礎知識を整理して学習しながら、新出漢字を**体系的に効率よく**学ぶことができる。1・2年には、小学校6年で学んだ全ての漢字を書いて練習できる教材が用意されている。→1年p.62, 78, 222

観点 4 情報の扱い方に関する内容の充実が図られているか。

- 情報の扱い方に関する事項**に示された内容が、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習を通して扱われており、どの教材で扱われているのかが巻頭に示されている。→各学年p.6
- 「学びを支える言葉の力」の「論理的な言葉の力」系統では、比較や分類、情報を図や表に整理することなどの**情報の整理**の仕方や、意見と根拠、具体と抽象などの**情報と情報との関係**の捉え方を、生徒にとって身近な例を題材に、集中的に学ぶことができる。→1年p.226, 234 2年p.230, 234 3年p.238
- 「書くこと」の教材や、「読書」の教材に付されている読書活動のてびきでは、引用の仕方や出典の示し方、情報の信頼性の確かめ方が扱われており、**情報活用能力**の育成が図られている。→1年p.75 2年p.182 3年p.77
- 資料編には、「著作権と引用」「著作権について考える」「情報の信頼性を確かめる」など、**情報の整理**の仕方についての知識が精選されて掲載されている。→1年p.302 2年p.305 3年p.309

観点 5 我が国の言語文化に関する内容の改善・充実が図られているか。また、我が国の言語文化に親しみ、継承・発展させる態度の育成にふさわしい教材が選定されているか。

- 我が国で長く読み継がれてきた優れた古典作品が、文種（ジャンル）や内容、成立年代のバランスを考慮して取り上げられている。各教材とも作品や作者に関する解説が掲載されており、**我が国の言語文化を尊重し継承する態度**を養える。

- 折り込みを用いるなどして、古典作品のあらすじや歴史的背景などが、**色彩豊かな絵巻や資料性の高い図版**とともに紹介されており、古典を深く理解し、鑑賞することができるようになっている。→2年p.131 3年p.139
- 1年の古典教材の冒頭には、特設教材「移り行く浦島太郎の物語」が配置され、「浦島太郎」を題材に**古典を学ぶ意義**が示されており、中学校の古典学習へといざなう工夫がされている。→1年p.126
- 資料編には、本編の古典学習を広げたり深めたりすることのできる**発展的・補充的な教材**が掲載されている。1年には、代表的な古典作品の冒頭などが用意されている。2・3年には、本編の古典作品に関連した解説文・鑑賞文が掲載され、併せて読むことで、本編の作品をより深く味わうことができる。→1年p.292 2年p.290 3年p.292
- Dマーク（㊦）の付された教材（本編の全古典作品）には、**朗読や資料映像**がウェブページに用意されている。
- 各学年巻頭の見返しや、各まとまりの扉に**四季折々の詩歌**が掲載されているなど、豊かな日本語に触れる機会が多く設けられている。→各学年前見返し 3年p.17, 183

観点 6 読書指導に関する内容の改善・充実が図られているか。

- 全ての学習の基盤ともなる読書が重視され、「**読書案内**」や「**読書活動**」の充実が図られるなど、生徒の豊かな読書生活を支援する工夫がされており、生徒が**進んで読書に取り組む態度**を養える。
- 「読書」の教材は、各学年、夏休み前・冬休み前・春休み前の3か所に掲載されている。初めの2か所では、〈戦争・平和〉〈福祉・共生〉〈日本文化〉〈国際理解・人権〉などテーマ別に作品が選ばれている。最後の1か所には、近代文学の名作（芥川龍之介・夏目漱石・森鷗外）の作品が掲載されている。→1年p.80 3年p.86, 214
- 各学年の「読書」の初めの2か所には読書活動のびきが付されており、図書館で調べたり、ポップを作ったりするなど、**情報活用能力**を育成するとともに、読書を楽しむことができるように工夫されている。Dマーク（㊦）の付された教材には、関連する資料がウェブページに用意されている。→1年p.94, 182
- 「読書」の教材や資料編に読書案内が付されている。テーマ別で読み比べや読み広げを促したり、近代文学の名作や作家を紹介したり、著名人が本を推薦したりするなど、さまざまな読書案内が用意されており、生徒の多様な興味に応じられるように配慮されている。3学年で合計**361冊の本**が紹介されている。→2年p.180, 222, 285, 286

（思考力、判断力、表現力等）に関わる学習内容の改善・充実

観点 7 思考力、判断力、表現力等が、確実に習得できるように工夫されているか。

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材で身につけたい資質・能力が、「**言葉の力**」という囲みで、生徒にも分かりやすい表現で明示されている。→1年p.104, 109, 110, 115, 116
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の教材冒頭には、「言葉の力」に対応する「**目標**」・「**問いかけ**」が示され、生徒が「言葉の力」を意識しながら学習に臨めるように工夫されている。また、教材末尾には**記述式の「振り返り」**が設けられ、「言葉の力」の確実な習得を促し、自己評価ができるようになっている。→1年p.62, 68
- 「言葉の力」は、3年間で**系統的・段階的**に積み上がるように配置されている。→各学年後見返し
- 基礎編「学びを支える言葉の力」では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域に共通して必要となる**基礎的な資質・能力**を、取り立てて鍛えることができる。→1年p.226, 230, 234, 238, 242, 246
- ウェブページには、基礎編「学びを支える言葉の力」の全18教材の**練習問題**が用意されている。

観点 8 実生活で生きて働き、各教科の学習の基盤ともなる資質・能力が身につくように工夫されているか。

- 各教材の「言葉の力」や言語活動では、国語に限らず、**他教科の学習や実生活**のさまざまな場面で生かせる資質・能力を育むことができるように、具体的な内容や手順が**汎用性**をもって示されている。
- 基礎編「学びを支える言葉の力」では、**他教科の学習や実生活**での言語活動を支える**汎用的な資質・能力**を養うことができる。教材末尾の「つながる・広がる」では、身につけた資質・能力を他教科の学習や実生活に生かす手立てが、**一コマ漫画**で示されている。→1年p.226, 229, 230, 233

観点 9 PISA型読解力の育成や、全国学力・学習状況調査で求められる学力の向上のための取り組みは十分か。

- 複数の情報を結び付けて考えること、根拠を示して考えを述べること、文章を吟味し評価することなど、**PISA調査や全国学力・学習状況調査**で課題とされている**学力**を育むための仕掛けが豊富である。

- * 比較や分類、情報を図や表に整理することなどの情報の整理の仕方や、意見と根拠、具体と抽象などの情報と情報との関係の捉え方を取り立てて扱っている教材がある。→1年p.226 2年p.230 3年p.238
- * 内容や書き方について読み比べのできる教材が数多く掲載されている。→2年p.90, 94 3年p.30, 35, 107, 281
- * 図表を用いた文章を読んだり、図表を効果的に活用したりする教材が豊富に用意されている。→1年p.97 2年p.55, 107
- * 根拠を吟味して考えを述べる活動が多数扱われている。→1年p.107 2年p.101 3年p.107
- * 構成や字数などの条件に従って、考えを記述する問いが設けられている。→1年p.104 2年p.98 3年p.72
- * 「広がる言葉」「言葉を広げよう」など、生徒の語彙を豊かにする手立てがある。→1年p.53, 168, 169, 328

主体的・対話的で深い学びを実現するための学習内容の改善・充実

観点 10 生徒が、見通しを持って主体的に学習に取り組み、対話を通して課題を解決するといった、主体的・対話的で深い学びが実現できるように工夫されているか。

- 教科書全体を通して、個性豊かなキャラクターに倣って学習を進めていくスタイルが貫かれている。課題解決的な言語活動が数多く設けられ、生徒どうしが助言し合ったり、議論を通して考えを深めたり、お互いの考えを生かして結論をまとめたりするなど、対話を通して学びを深められるように工夫されている。→2年p.64, 107, 250
- 基礎編「学びを支える言葉の力」の導入である本編「学びの扉」では、日常生活の中で陥りがちなつまづきの場面が漫画で描かれ、言葉の使い方に関する課題を主体的に発見できるようになっている。また、言葉の学びの意義が伝わるとともに、生徒の学習意欲を引き出す内容が工夫されている。→1年p.29, 54, 96, 106
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の教材冒頭には、キャラクターによる「問いかけ」が設けられ、生徒が主体的に見通しを持って「言葉の力」を習得できるように工夫されている。→1年p.97, 107, 193
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材では、活動過程の具体例や完成作品例、対話の例が豊富に示されており、生徒の多様な思考・表現を支援する配慮がされている。→1年p.70 2年p.64, 107 3年p.197
- 物語仕立ての「日本語探検」、ゲームで学べる「文法の窓」、言葉の学びを深めるきっかけとなる漫画「学びの扉」は、いずれも生徒の学習意欲をかき立てる工夫がされている。→1年p.58, 170, 192

観点 11 SDGsをはじめ、現代的な諸課題に対して主体的に取り組むことのできる内容になっているか。

- SDGsをはじめとしたさまざまな現代的な諸課題が数多くの教材で扱われており、生徒の視野を広げ、社会の問題と主体的に向き合う姿勢を育むことができる。
 - * 戦争・平和…「碑」、 「字のない葉書」、 「生ましめんな」 など →1年p.80 2年p.30 3年p.212
 - * 防災・安全…「いつものように新聞が届いた——メディアと東日本大震災」 など →3年p.184, 197
 - * 環境…「絶滅の意味」「編集して伝えよう」「自然との共存——小笠原諸島」 など →3年p.63, 75, 281
 - * 人権・福祉・国際理解…「風を受けて走れ」「そこに僕はいた」「恩返し井戸を掘る」 など →1年p.172, 273 3年p.86
 - * キャリア教育…「何のために『働く』のか」 など →3年p.172
 - * 食品ロス…「観察・分析して論じよう」 など →3年p.107
 - * 伝統・文化…「調べて分かったことを伝えよう」「鯉節——世界に誇る伝統食」 など →1年p.70 2年p.174

内容の取り扱い（構成・配列）

観点 12 各領域の学習内容の系統性・段階性、領域間の関連が図られているか。また、各領域等の資質・能力が偏りなく育成できる構成になっているか。

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材で身につけたい資質・能力が、「言葉の力」という囲みで、生徒にも分かりやすい表現で明示されている。「言葉の力」は、指導事項に基づきつつ、実際の言語活動の場面に即した具体的な内容になっている。また、特定の教材だけでなく、他の教材や他教科の学習、実生活のさまざまな場面でも生かせる汎用性を備えたものとなっている。→1年p.104, 109, 115
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域とも、3年間を通した系統性・段階性をもって「目標」が立てられ、「言葉の力」が配列されている。豊かに感じたり想像したりする力から、論理的に考える力、的確に伝え合う力まで、さまざまな系統の力を偏りなく身につけることができるようになっている。→各学年後見返し

- 「読むこと」で習得した「言葉の力」は、続く「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の教材の中で活用できるなど、**領域間で有機的につながる**ように配列されている。→1年p.97→107→112
- 「学びの扉・学びを支える言葉の力」で習得した**基礎的な資質・能力**が、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材の中で活用できるように構成が工夫されている。→1年p.96→97, 106→107, 192→193

観点 13 適宜学習を振り返ったり、深めたりするなど、個に応じた学習ができるように工夫されているか。

- 本編・基礎編・資料編の3部構成のうち、資料編では、本編や基礎編で学んだことについて振り返ったり、理解を深めたり、**発展的・補足的な学習**に取り組んだりすることができるため、学校や生徒の実情に応じて柔軟に扱うことが可能である。→1年p.267 2年p.269 3年p.267
- 目次に続くページには、領域別の**既習事項**（これまでに学んだこと）と、**学習事項**（これから1年間で学ぶこと）が掲載されている。→各学年p.6
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の教材末尾の「振り返り」は、学んだことを自分の言葉でまとめる記述式になっており、「**言葉の力**」の**確実な習得**を促し、**自己評価**ができるようになっている。→1年p.40, 57, 74
- 資料編「学習用語一覧」で、重要な学習事項が確認できるようになっている。→1年p.332 2年p.336 3年p.344
- 巻末折り込みの『「学びを支える言葉の力」のまとめ』では、基礎編「学びを支える言葉の力」の学習内容を復習することができる。→1年p.333 2年p.337 3年p.345
- 巻末の『「言葉の力」一覧』では、3年間の「言葉の力」を確認することができる。→各学年後見返し

観点 14 2学期制への配慮がされているか。

- 2学期制でも、各学期において各領域等の学習・指導と評価がバランスよく行われるように、教材が配列されている。2学期制の場合、後期は、近代詩・古典の学習から始められるようになっている。

内容の取り扱い「話すこと・聞くこと」

観点 15 学習指導要領に示された指導事項が系統的に押さえられ、言語活動が十分に扱えるようになっているか。また、授業時数が十分に確保されているか。

- 「話すこと・聞くこと」の教材は、〈聞く〉〈話す〉〈話し合う〉の3系統から成っており、教材ごとに、重点的に扱う指導事項に基づく「目標」および「言葉の力」が明示されている。全ての指導事項が扱われ、言語活動例が網羅されている。→各系統の具体的なねらいは、別資料の「系統・『言葉の力』一覧」を参照。
- 「話すこと・聞くこと」の授業時数として、1・2年で15時間、3年で11時間が配当され、学習指導要領に配慮事項として示された時数を満たしている。

観点 16 資質・能力の着実な習得と活用のために、教材の構成などが工夫されているか。

- 「話すこと・聞くこと」の教材冒頭には、身につける「**言葉の力**」（資質・能力）に対応する「**目標**」・「**問いかけ**」が示され、生徒が「言葉の力」を意識しながら学習に臨めるように工夫されている。また、教材末尾には**記述式の「振り返り」**が設けられ、「言葉の力」の**確実な習得**を促し、**自己評価**ができるようになっている。→1年p.112, 117
- 教材冒頭にDマーク（㊦）の付された教材には、聞き取り用の**音声**や、スピーチ・話し合い等の**映像**が、ウェブページに用意されている。→2年p.47, 107
- 資料編には、「発想・整理の方法」「取材の仕方」「話し合いの方法」など、本編の学習で生かすことのできる「話すこと・聞くこと」の知識が精選されて掲載されている。→1年p.298 2年p.301 3年p.306

観点 17 生徒の発達段階に即した題材を取り上げているか。

- 言語活動の題材として、生徒の興味・関心を喚起し、日常生活・社会生活に関わるものが取り上げられている。
 - * 1年…言葉に関するスピーチ、グループディスカッションなど →1年p.112, 193
 - * 2年…提案型のプレゼンテーション、リンクマップを用いた話し合いなど →2年p.107, 193
 - * 3年…場の条件に合わせたスピーチ、合意形成を目指す話し合いなど →3年p.115, 197

内容の取り扱い「書くこと」

観点 18 学習指導要領に示された指導事項が系統的に押さえられ、言語活動が十分に扱えるようになっているか。また、授業時数が十分に確保されているか。

- 「書くこと」の教材は、〈詩歌創作〉〈伝達〉〈論証・説得〉〈通信・手紙〉〈描写・表現〉〈感性・想像〉の6系統から成っており、教材ごとに、重点的に扱う指導事項に基づく「目標」および「言葉の力」が明示されている。全ての指導事項が扱われ、言語活動例が網羅されている。(〈通信・手紙〉〈描写・表現〉系統は1・2年のみ。)

→各系統の具体的なねらいは、別資料の「系統『言葉の力』一覧」を参照。

- 「書くこと」の授業時数として、1・2年で30時間、3年で20時間が配当され、学習指導要領に配慮事項として示された時数を満たしている。

観点 19 資質・能力の着実な習得と活用のために、教材の構成などが工夫されているか。

- 「書くこと」の教材冒頭には、身につける「言葉の力」(資質・能力)に対応する「目標」・「問いかけ」が示され、生徒が「言葉の力」を意識しながら学習に臨めるように工夫されている。また、教材末尾には記述式の「振り返り」が設けられ、「言葉の力」の確実な習得を促し、自己評価ができるようになっている。→1年p.70,74
- 教材冒頭にDマーク(回)の付された教材には、関連する資料がウェブページに用意されている。→2年p.146 3年p.75
- 資料編には、「原稿用紙の使い方」「著作権と引用」「手紙の書き方」「情報の信頼性を確かめる」など、本編の学習で生かすことのできる「書くこと」の知識が精選されて掲載されている。→1年p.299,302 2年p.302 3年p.309

観点 20 生徒の発達段階に即した題材を取り上げているか。

- 言語活動の題材として、生徒の興味・関心を喚起し、日常生活・社会生活に関わるものが取り上げられている。
 - * 1年…食文化に関するレポート、写真についての意見文、日常生活を描いた随筆など →1年p.70,107,199
 - * 2年…郷土を紹介するリーフレット、まちづくりについての意見文、職場体験の依頼状など →2年p.64,101,146
 - * 3年…環境に関する新聞の編集、ポスターの批評文など →3年p.75,107

内容の取り扱い「読むこと」

観点 21 学習指導要領に示された指導事項が系統的に押さえられ、言語活動が十分に扱えるようになっているか。また、授業時数が十分に確保されているか。

- 「読むこと」の教材は6系統から成る。加えて、各学年冒頭には言葉に向き合うための「随筆」教材が用意されている。「読書」と「詩」の教材も、各学年3か所に掲載されている。教材ごとに重点的に扱う指導事項に基づく「目標」および「言葉の力」が明示されており、学年を通して全ての指導事項が扱われ、言語活動が網羅されている。
- 文学を中心とした系統として、〈言語感覚〉〈文学一〉〈文学二〉の3系統があり、定評のある作品に加えて、現代の優れた書き手による、中学生の感性に合った新鮮な作品も掲載されている。
- 説明・論説文を中心とした系統として、〈構成・展開〉〈吟味・判断〉〈言葉とメディア〉の3系統がある。本編・資料編合わせて13作品中11作品が書き下ろしで、目標に合致した文章となっている。

→文学および説明・論説文の各系統の具体的なねらいは、別資料の「系統『言葉の力』一覧」を参照。

- 「詩」の教材には、〈巻頭詩〉〈日本語のしらべ〉〈詩の言葉〉の3系統があり、音読に適した爽やかな詩、日本語のリズムや響きを味わう近代の名詩、内容をじっくりと読み深めたい詩が掲載されている。→3年巻頭,p.124,210
- 「読むこと」の授業時数として、1・2年で53時間、3年で48時間が配当され、十分な時間が確保されている。

観点 22 資質・能力の着実な習得と活用のために、学習の手引きなどが工夫されているか。

- 「読むこと」の教材冒頭には、身につける「言葉の力」(資質・能力)に対応する「問いかけ」が、教材末尾の「てびき」には「目標」が示され、生徒が「言葉の力」を意識しながら学習に臨めるように工夫されている。また、「てびき」末尾には記述式の「振り返り」が設けられ、「言葉の力」の確実な習得を促し、自己評価ができるようになっている。→1年p.62,68

- 「てびぎ」には、各目標（指導事項）に対応した2～3段階の問いが示されており、順を追って取り組むことで無理なく学べるようになってきている。〈言葉とメディア〉系統や「古典」の教材に「書くこと」に関わる問いが設けられ、「読むこと」と「書くこと」の関連も図られている。→2年p.62, 127, 190
- 「てびぎ」では、複数の情報を結び付けて考えたり、根拠を示して考えを述べたり、条件に従って記述したりするなど、PISA調査や全国学力・学習状況調査に見られるような問いが積極的に取り上げられている。→2年p.98 3年p.72
- 資料編には、本編の教材と関連して読み比べたり読み広げたりして、発展的・補充的な学習に取り組める教材が掲載されている。→1年p.273, 280 2年p.270, 276 3年p.268, 281

観点 23 生徒の発達段階に即した題材・文種を取り上げているか。

- 生徒の発達段階に応じた文種・文章構成・文章量が設定され、題材として現代的な諸課題が取り上げられている。
 - * 1年 図表が用いられた記録文…「私のタンポポ研究」→1年p.97
 - * 2年 同じテーマについて異なる視点から論じられた評論文…「黄金の扇風機」「サハラ砂漠の茶会」→2年p.90, 94
 - * 3年 作中人物の対話を読み解いて考えを深める評論文…「幸福について」→3年p.96

学習への配慮

観点 24 小学校の学習内容との関連が図られているか。

- 小学校の学習内容（学習指導要領に示されている指導事項および言語活動例）を踏まえて、中学校3年間の目標が立てられ、「言葉の力」と言語活動が設定されている。すなわち、学習指導要領に基づいて小中9年間の系統性が図られている。
- 小学校6年から中学校1年への学習の移行がスムーズに行えるよう、中1ギャップへの配慮がされている。具体的には、1年最初の教材「話し方はどうかな」は、小学校高学年と同じ大きさの教科書体で示されている。また、1年前半の教材では、各領域にわたって小学校高学年の復習にもなるように配慮されている。
- 「古典」では、小学校で音読などを通して代表的な作品の冒頭に触れていることを踏まえ、中学校では、同じ作品・章段であっても長めに掲載したり、別の章段を載せたり、資料を豊富に示したりすることで、古典への理解を促し、考えを深められるように工夫されている。
- 1年資料編に「学習を始める前に」が設けられており、「ノートの書き方」「情報の調べ方」「辞典の引き方」など、国語学習を進めるための基本事項を適宜確かめることができる。→1年p.268

観点 25 高校の学習内容との関連が図られているか。

- 3年には、高校への橋渡しになるよう、社会性の高い題材や言語活動が多く設けられている。
- 2・3年には、高校の国語教科書に作品が多く採録される著作者の文章が掲載されており、文章の難易度のうえでも高校とのスムーズな接続が図られている。
- 大学入学共通テストのねらいなどを踏まえ、図表を用いた実用的な文章を読み取ったり、さまざまな文章や主張を比較・精査したりする活動が数多く用意されている。→3年p.30, 63, 96, 107, 281
- 「古典」では、3年の資料編に簡単な文語文法の知識が整理されて掲載されている。（文語文法は高校での学習内容であるため、発展的な学習の扱いとなる。）→3年p.300

観点 26 他教科の学習や実生活との関連が図られているか。

- 社会、理科、技術、家庭、保健体育など、他教科と関連する題材が積極的に取り上げられ、関連があることを示す教科関連マーク（㊟）が付されている。また、豊かな情操を育む文学作品、共感する心を養うドキュメンタリー、公共の精神を育てる協働的な言語活動が豊富であり、道徳との関連も図られている。→1年p.172 3年p.184
- 「他教科で学ぶ漢字」では、社会、数学、理科、技術、家庭、保健体育の重要語句に含まれる漢字が取り上げられている。→1年p.171 2年p.52, 150 3年p.28, 152
- 本編「学びの扉」では、日常生活の中で陥りがちなつまづきの場面が漫画で描かれている。→2年p.46, 100
- 基礎編「学びを支える言葉の力」では、学んだことが他教科の学習や実生活にどう生きていくのかが、「つながる・広がる」の囲みで具体的に示されている。→3年p.237, 241, 245, 249, 253, 257

観点 27 地域性への配慮がされているか。

- 各領域の教材の選定において、地域的な偏りが生じないように配慮されている。
- 「方言と共通語」「さんちぎ」「そこに僕はいた」などで、方言に関心と愛着が持てるようになっている。

観点 28 全ての生徒にとって使いやすい教科書となるように、表現や体裁などにおいて、特別支援教育やユニバーサルデザインの配慮がされているか。

- 特別支援教育の観点から、全ページにわたり、内容とデザインについて専門家による検証・校閲がされている。全ての生徒にとって、各部分の認識や重要な部分の判別がしやすいように工夫されている。
- カラーユニバーサルデザインの観点から、全ページにわたり、配色とデザインについて専門家の検証・校閲がされている。生徒の色覚特性への配慮から、色以外の要素できちんと識別できるようになっている。→1年p.100, 253
- 小学校で学習していない漢字には、教材ごとの初出箇所必ず振り仮名が付けられている。生徒の漢字への抵抗感を和らげ、漢字に読み慣れることができるように配慮されている。
- 本文書体に、小学校の教科書で使用されている教科書体に筆遣いや字形を近づけた、特別な明朝体が使われているため、生徒が読む文字と書く文字との違いで混乱することを避けられる。
- 1年の「読むこと」の教材本文には、2・3年よりもひとまわり大きな活字が用いられている。更に、1年最初の「読むこと」の教材「話し方はどうかな」には、小学校高学年と同じ大きさの教科書体が用いられている。→1年p.14
- 「読むこと」の教材では、生徒が行を数えやすいように、各行の下に数字と点が付されている。
- 脚注欄などの小さめの文字の振り仮名はゴシック体になっており、読みやすさへの配慮がされている。

観点 29 情報活用・ICT活用に対する工夫がされているか。

- 「読むこと」の〈言葉とメディア〉系統では、メディアリテラシーについて深く学ぶことができるようになっている。また、「書くこと」の〈伝達〉系統や読書活動のてびきでは、図書館の活用法や情報の集め方・信頼性の確かめ方などが扱われ、情報活用能力の育成が図られている。→1年p.72, 94, 184
- 1年資料編「学習を始める前に」の中の「情報の調べ方」には、本やインターネット、新聞を用いた情報収集の仕方が、分かりやすくまとめられている。→1年p.270
- デジタルコンテンツを利用することが効果的な教材には、そのことを示すDマーク(Ⓚ)が付されており、インターネットを通して、音声や映像、シミュレーションゲーム、練習問題や補充問題など計70のコンテンツが活用できる。「学習の進め方・教科書の使い方」や、巻末折り込みには、2次元コードも掲載されている。→1年p.12, 336
 - *「話す・聞く」や「古典」の、音声や映像 →1年p.112, 135など、計29教材
 - *「文法の窓」のシミュレーションゲーム →1年p.170など、計10教材
 - *「学びを支える言葉の力」の練習問題や、「文法解説」の補充問題 →1年p.226, 250など、計28教材
 - *本のポップや手紙の書き方が示された、「新しい書写」の教科書紙面 →1年p.182など、計3教材
- 学習者用デジタル教科書、学習者用デジタル教材、指導者用デジタル教科書(教材)の発行が予定されている。



観点 30 家庭学習・自学自習への配慮がされているか。

- 「読むこと」の脚注語彙や「広がる言葉」、「言葉を広げよう」など、家庭でも取り組める内容が豊富である。
- 「文法の窓」のゲームをはじめ、Dマークコンテンツは家庭での予習・復習にも活用することができる。
- 基礎編「学びを支える言葉の力」は、生徒が一人で読んでも理解しやすく、家庭での予習として扱うこともできる。
- 資料編には、本編での学びをより確かなものにできる教材や、本編で学んだことを生かして取り組める教材が多数用意され、発展的・補充的な学習に活用できる。家庭でも取り組めるように、丁寧で分かりやすい表現になっている。

観点 31 印刷・製本は適切か。また、用紙の軽量化などの配慮がされているか。

- 文字組みは読みやすく、イラストや写真も美しく鮮明に印刷されている。
- 再生紙および植物油インキが用いられており、環境への配慮がされている。
- 製紙会社との共同開発により、約4.5%の本文用紙の軽量化がされている。裏写りを抑えた、文字が見やすい用紙のため、生徒の負担軽減が期待される。
- 製本強度の検査が繰り返し行われており、製本は堅牢で、十分な耐久性がある。